

自民党 衆議院議員

活動報告書

# 木原誠二

せいじ便り



62号

一歩一歩ともに

## 外務大臣政務官を拝命しました

去る9月30日、外務大臣政務官を拝命し着任しました。緊張が続く日中関係、日韓関係の改善、日米同盟関係の強化など外交課題は山積しています。また、アベノミクスの海外への発信、その一環としてのクールジャパン戦略推進、観光立国の推進などの個別課題も多々あります。外務という立場上、海外出張も多くなり地元を空けることも増えると思いますが、粉骨砕身、全力投球します。



### ガラパゴス化した 国会の改革に向けて!!

国会改革の議論がわかに盛り上がりつつありました。自民党では政治制度改革実行本部のもとに「新しい国会の在り方を考える小委員会」を設置し、平沢勝栄衆議院議員が委員長、私が事務局長として、連日議論を重ねてきております。

私は、99年〜01年まで英国大蔵省に出向して、当時のゴードン・ブラウン英国大蔵大臣（後の英国首相）の下で仕事をし、英国政治、英国議会の状況をつぶさに学んできました。01年にその経験を「英国大蔵省から見た日本」（文春新書）にまとめましたが、以来一貫して、日本の国会改革の必要性を訴えてきました。

結論から言えば、日本の国会はガラパゴス化しています。



#### 国会の多機能化に向けて

もともと国会あるいは議会というものは、多くの国で立法機関としての位置づけにあります。ところが、現実には、立法の多くは行政府の手によってなされています。その結果、多くの国で、議会は政府提案の法律に対して質疑応答をし、追認する機関になってしまいました。その現実を前に、諸外国では、10年以上も前から、積極的に議会改革を進め、議会に立法以外の機能役割を付与することに腐心してきています。法律案について質疑をするということにとまらず、例えば、与野党間で徹底的な討論をする、与野党共同して、ある特定の問題について調査・研究をする、政府の行政執行を徹底的に

チェックする…。

ところが我が国だけは、依然として、政府に対する質疑応答型、それも一問一答形式の質疑応答型に偏ってしまっています。そこで、我が国においても二つの方向性で、諸外国と同様の多機能化を実現していきたいと考えています。

### ① 討論型機能の拡充

現在、党首討論の制度があります。が、殆ど開催されていません。これを毎週1度定例開催、それも現在の40分から1時間に延長する。加えて、党首討論のほかに、例えば外務大臣と野党の外交担当責任者の間の、大臣討論を月に2回開催する。

### ② 調査研究型機能の拡充

現在国会に置かれている憲法調査会のように与野党が一つの議題について調査研究をして報告をまとめる委員会、例えば「国家基本問題調査研究特別委員会」(仮称)を設置して、年間数件程度の課題について、報告書をまとめる

## 一問一答形式の国会の効率化

国会の多機能化を進める一方で、現在の一問一答型、質疑応答型国会の効率化を進めていくことが必要です。政府への質疑応答に偏重するがために、日本の国会の大きな特徴となつて

いるのが、総理及び大臣の国会出席時間が異常に長くなっていることです。

注 諸外国におけるリーダーの平均議会出席回数  
日本：127日、英：36日、仏：12日、独：11日

しかし、総理や大臣は、行政府、各省庁のトップです。会社でいえば社長。その社長が、毎日毎日、株主総会に呼ばれていて、会社を不在にしていれば、その会社はたちゆきません。官僚主導と非難されることがありますが、そもそも総理や大臣が国会に拘束されている状況では致し方ない面もあります。加えて、現状は、総理や大臣の外交活動に大きな障害となっています。国会開会中は、重要な国際会議に出席が難しいのが現状です。そこで、以下のとおりの改革を進めていきたいと考えています。

① 総理の国会出席は予算委員会に限定し、その出席時間にも一定の上限を設ける。

② 大臣についても、できる限り公務に専念できるように、副大臣・政務官の答弁を容認する。

こうした改革を進めると、必ず国会軽視と非難されますが、先述の党首討論や大臣討論を充実させることで、補っていきます。

## 国会の無駄排除

国会の機能充実とともに大切なのが無駄排除です。国会といえども聖域ではありません。委員長専用車や委員長手当などについては廃止を視野に取り組んでいきます。また、衆議院と参議院両方に重複している調査局機能の二元化などにも取り組んでいかなければなりません。

## 与野党合意に向けて

両院協議会や同意人事の在り方、国会情報の発信の在り方など、国会改革のテーマはこの他にもあります。しかし、国会改革は与野党が合意して初めて実行できるものです。いくら提言案をまとめても、国会における与野党折衝の現場でまとまらなければ何にもなりません。

幸い、2回の政権交代によって、野党の中にもかつての与党があり、現在の与党も野党経験があります。合意できることから二つ二つ実施に移していくことが大切です。

ご報告のとおり、今回外務大臣政務官として政府に入ることとなりましたので、国会改革のこの先は後任に譲ることとなりますが、二つでも実現するよう引き続きサポートしてまいります。

### 地元事務所

〒189-0013 東村山市栄町2-22-13 松岡ビル2F  
TEL 042-392-4105 FAX 042-392-4106

### 国会事務所

〒100-8981 東京都千代田区永田町2-2-1 衆議院第一議員会館915号室  
TEL 03-3508-7169 FAX 03-3508-3719

## 木原誠二公式モバイルサイト

<http://kiharaseiji.com/k/>

携帯電話から木原誠二モバイルにつながります。



### 木原誠二プロフィール

年金・医療・介護、障害者福祉、行財政改革、公務員制度改革、都市農業など幅広く活動を展開。1970年6月東京生まれ。私立武蔵高校、東京大学法学部、ロンドン大学LSE修士卒業。平成5年大蔵省入省。平成17年9月衆議院初当選。著書に「英国大蔵省から見た日本」(文春新書)



オフィシャルブログ <http://ameblo.jp/kiharaseiji/>

twitter ID [http://twitter.com/kihara\\_seiji](http://twitter.com/kihara_seiji)

ホームページ <http://www.kiharaseiji.com>

発行：木原誠二後援会 東京都東村山市栄町2-22-13 松岡ビル2階